

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成29年3月31日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ スミイマチ ハカクツヲ ツクリタイ

団体名住みたいまち幡多学区を創り隊

所在地

連絡先

フリガナ カガシオ ヨシマ

代表者氏名 代表 長汐 良熊

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	住みたいまち幡多学区を創り隊
事業実施区域 (小学校区)	幡多小学校

学区で行う行事の中心が高齢化しており、世代交代をしていくことが学区の発展・継続からしても急務である。

そのため仲間づくり、一緒に活動できる仲間と組織を作っていくことを様々な事業に参画したりしながら進めていきました。

連合町内会の下部組織である本団体は、学区連合町内会会長でもある長汐会長から問題を提起いただき、一つ一つをすぐにはできませんが、解決していこうと考え、今回事業計画に入れさせていただいたものは、事務局である私自身が身近に関われ、協力することに抵抗のない団体と共催して進めていける行事から進めていくことにしました。

1つ目は、運営が高齢化して、会そのものをやめる方向だった、15年続いてきた高屋パークフェスティバルを若手中心で継続することに協力していくことでした。

運営そのものから一緒に見直しをし、準備から、開催当日2日間、片づけまでが2週間以上あり、負担が大きく普段仕事をしている若手世代にはなかなか関わりにくい仕組みとなっていたので、シンプルに準備を1日、開催日を1日、片づけを1日でできる内容で継続、ただし、ブースなど規模は縮小せず、開催日を2日を1日に減らすだけで

おこないました。人手と時間がかかっていたステージをやめ、ステージでの各団体を招いてのパフォーマンスをやめ、また派手な抽選会などもやめ、フェスティバルに来ていただいている方が楽しめるイベントを考えることとしました。

イベントについては、我々団体に企画運営を任せていただきました。

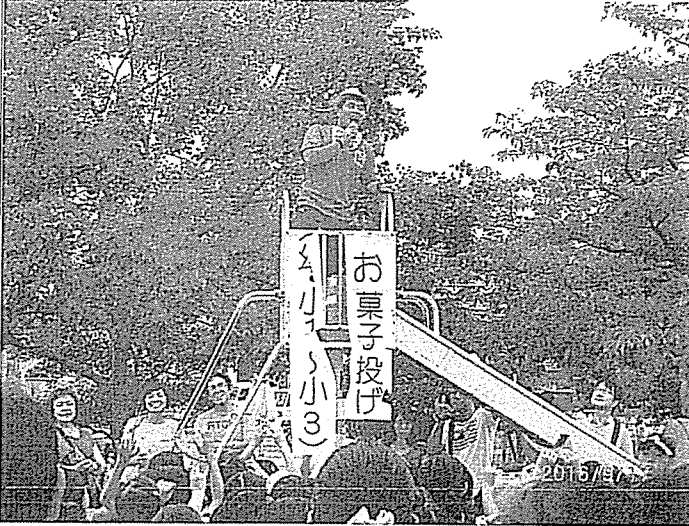
1. 高屋クエスト

福寿会（65歳以上の方）の方に協力していただき、参加する小学生以下の子どもたちが、ある条件を満たす人たち（福寿会の人）が持っている宝物（景品引き換えカード）を見つけ、3つの質問に答え、受けるときに「ありがとう」といえた子だけに渡すという、ゲームを行いました。子ども80名、福寿会10名 計90名で行いました。福寿会の方も子供たちに囲まれ、子供たちも普段あまり接することのない方たちと照れながら会話し、すごく和気あいあいと楽しくできました。



2. 菓子投げ

園児～小学低学年、小学高学年～中学生の2組に分け、それ以外の方の参加は不可で行いました。ジャングルジムと、滑り台に振り分け2回行い、のべ400名の子どもたちが参加してくれました。けがもなく短時間ではありましたがすごく盛り上がり、子供達だけでなくそれを見ている保護者の方も楽しくしているのがよかったですと思いました。



ほかに、中学校の吹奏楽の演奏や、コーラ早飲み競争を行いました。（こちらは町内会企画で進めました）

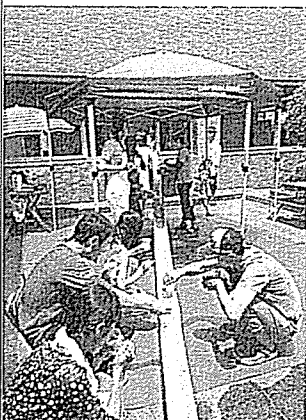
次年度からは、一緒にかかわっていただいた町内会の若手メンバーに引き継ぎ、町内で、すべて運営していただくことにしております。

2つめは、比較的若手の保護者で活発に活動されている子育て広場や、発達障害の子を持つ保護者の会（ウィズはあと、おひさま会）と共催しながらどんな子供たちでも住みやすく弊害のない、助け合える地域になる活動を行いました。

1. そうめん流し

発達障害の子どもたちは、引きこもりがちでなかなか人と関わるのが苦手な子が多いです。楽しみながら食べ、さらに無邪気な未就学児とも絡み、お互いに元気になってもらいたいという思いで行いました。未就学児が30名その保護者が40名、子どもたちが10名、その保護者が15名 計95名の参加で行いました。

準備、運営はウィズはあと、おひさま会、子育て広場のメンバーで行いました。子育て広場からの参加者は参加だけの方が大半ですが、その他の団体は自分の子どもを見ながらだったので、かなり大変そうですが、普段見ない子どもの表情が見れて、とても満足されておりました。



2. 地域で発達障害をもっと理解していただき、みんなで育てていける環境にしていきたい、また、10年後、20年後の地域を支える子供たちをどう育てるかを考え、実践するための活動として、講演会や、映画の上映会を行いました。

①12月3日 「気になるあの子たちの将来につなげる関係づくり」

ノートルダム清心女子大 青山新吾先生

東公民館にて80名程度の参加で行いました。発達障害の子というよりもっと広く「気になるあの子」として、地域の中での子育てへの関わり方を解りやすくお話ししていただきました。



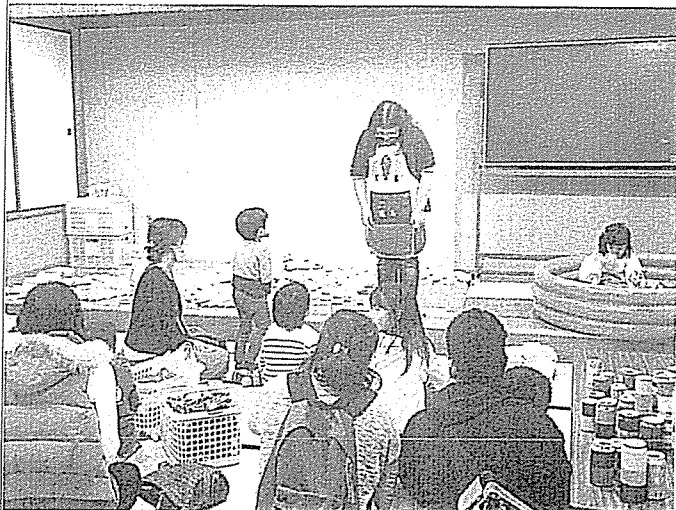
②2月11日 映画「みんなの学校」上映会および木村泰子先生（みんなの学校の舞台となった大阪市立大空小学校元校長）の講演

幡多小学校体育館にて155名の参加で行いました。地域・学校・保護者が三位一体となって頑張っているドキュメンタリー映画と、10年後、20年後を未来に向かって進む子供たちを地域として我々がどう関わり、どう育てていくべきかを考えさせられる、本当に企画してよかったと思いました。小中学校の校長をはじめとした、学校管理職、連合町内会長をはじめとした地域の関係者などがしっかり参加して下さってあとは行動のみです。



3. 東公民館主催 ふれあいフェスタ 出店（11月24日）

東公民館からのご要望で参加者が高齢化しているため、子供たちが参加しやすいブースをとのことで、子育て広場とウィズはあとに協力をいただき、出店することにしました。子育て広場では、釣り堀など小さな子供が遊べるものを準備していただき、ウィズはあとでは、ボードゲームを用意していただき、広く子供から大人の方も遊べるようにしました。ほかの団体の方も、将棋や、囲碁なども持ち込んでくださり、すごく盛り上がり、よい活動になりました。



3つめとして、知りたい情報を、伝えたい情報をいち早く受発信したいとの要望があり、

具体的には小学校の保護者に対して学校では一斉メールなどいち早く情報を伝えているが例えば老人会が行ってくださっている登下校子供見守り隊に下校時刻の変更や、立っていただく箇所の変更なども名簿を頼りに電話連絡しか伝える手段がない。また、メール配信等の利便性や、必要性を仕組みを作り実際に使っていただくことで学区全体で使用する必要性があるか検証していきながら、電子町内会、電子マップを活用し、学区の情報を早く、広く伝える活動をするとして数回会議を設けて進めてまいりましたが、思いだけが先行してしまい、送受信する内容や、送り先などをもう少ししっかりと煮詰めていく必要があると判断し、決定するまでは小学校の一斉メールを活用することと、従来の方法と、LINEなどのSNSの活用でカバーしていき、確定し次第システムを構築していきます。

<p>事業目的とその達成状況と効果</p>	<p>今回の一番の目的は、学区で行う行事の運営メンバーが高齢化なため、今後継続発展していくためには世代交代が必須である。そのためのメンバー集めと、組織づくりである。</p> <p>一緒に行事を行っている中で、日数や、時間帯、負担の分割など、関わり方にメリハリを設けることで、多くの若手の方が運営の手伝いに参加してくださいました。固定概念に振り回され、できないと考えていることを、実際私たちがやって見せることで、できると分かってもらうことで、一緒になって関わっていただけることが多かったです。</p> <p>高屋パークフェスティバルも15年間で大きくなりすぎて、何もかもしないといけない、できないと考えてしまい、人手と労力がすごくかかり、関りを敬遠してしまっていたところがありました。今までの経緯もしっかりお互いに理解でき当面は一部の方の負担は大きいですが、徐々に変わっていきける兆しが見えました。</p> <p>発達障害の子どもたちにしても、多くの子どもたちにしても、保護者の子育てに対する思いは一緒で、子どもたちがこの地域で元気に育ってほしいということで、そういった活動は、すごく協力的で、途中PTAの協力もいただけ、一緒に活動できる仲間が多いことがよく分かりました。</p> <p>まだスタートしたばかりなので、確実にじっくりと仲間づくりを進めていきたいと思えます。</p>
<p>企画などの工夫と情報公開</p>	<p>高屋クエストではルール（仕組み）に交流する内容を組み込むことであまり違和感なく子ども達と福寿会の方々が交流でき、その後福寿会の方が用意してあった囲碁や、グランドゴルフを子どもたちと一緒に楽しくしたりと、交流のよいきっかけになりました。</p> <p>発達障害の会と、子育ての会は意外と関わる事が無いので、一緒に会を運営することで、お互いが孤立した活動にならないように、子どもたちを育てる仲間を増やしていただけるように配慮しました。</p> <p>活動の周知については、掲示板と回覧板を活用した。上映会や、講演会などはFacebookなどのSNSも利用しました。</p>

1) 組織・体制をつくります（継続事業）

①若い世代が活躍できる組織・体制を拡大していきます

- ・行事、会議などに参加し、企画運営の協力をしながら、気の合う仲間、思いの近い仲間を見つけ、お互いの協力者になる様、活動をしていきます。
- ・事業に参加した方に声掛けをしながら協力者を募ります
- ・今までPTAや、支援ボランティアなどで活躍されていた方をお願いをしていきます。
- ・目標として活動するメンバーを20名以上にしていきたいと考えています。

2) 学区内の活性化を図る活動を行います。

① 発達障害の理解者・支援者を増やしていく推進活動（継続事業）

- ・当事者の保護者の方が相談できる会を充実させ、安心して子育てができるための支援（専門家を呼び相談会や、参考図書を充実させる）や、当事者たちが家から出て集えるイベントの支援を行います。
- ・講演会、勉強会、交流会などを実施し、当事者とどう関わればいいかわからない方に対して情報提供を行い、理解者、支援者を増やします
- ・子供たちがお祭りにブースを出したり、行事に参画することで、地域の方と一緒に活動をし、お互いを知り合い、違和感がない環境をつくります

② 地域交流活動（誰もが気軽に参加できる事業を企画・運営）（新規事業）

- ・田圃として使用していない場所を使って子どもの遊び場をつくります
→「泥んこ遊びの会」を実施します。

遊び内容例 : ソフトバレー、相撲、バランスレースなど

※今年度から発足された幡多小PTAイクメンクラブ(お父さんの会)と協力し企画運営をイクメンクラブ中心に進めていきます。

③ 幡多学区愛着度岡山NO. 1を目指す(住みたいまち幡多学区の実現)（新規事業）

幡多学区に愛着が持てる、幡多学区をもっと好きになる、そのきっかけとなるシンボル（イメージキャラクター）が必要だと考えました。

誰もから愛され、親しみのある幡多学区のイメージキャラクターを作り、学区を盛り上げていきます。

【進め方】

- ア) 子供たちに(まずは小学生)募集をし、先入観なく、自由な発想で考えてもらったキャラクターと、その名称、キャラクターへの思いを募集します。
- イ) 100件以上を目標に集め、数が集まらない場合は、学区内に一般公募を行います。
- ウ) 本会メンバーと学校評議員会を中心に検討会を実施し、キャラクターの意義、目的、思いなどをまとめます。

エ) それをもとに、学区の方に自由に参加して頂ける場を設け、広く意見を求めています。

オ) 集まったキャラクターを数点に絞り、回覧、もしくは電子町内会の掲示板を利用して投票するなど、多くの方にかかわっていただき、みんなのキャラクターとして最終の選考をします。

※募集は、先生方とも話し合い、冬休み、春休みを利用し、先行して（1月～3月）に行います。

カ) キャラクターは、学区の印刷物で活用する事はもちろん、PRグッズや着ぐるみを作成します。

※作成は市内のデザイン学校や企業の協力を得ながら、自分たちの手作りで行います。

キ) 着ぐるみキャラクターは色々な地域行事に登場させていきます。（別紙参照）

④ 学区内の情報を発信していく仕組み検討（継続し、見直し検討課題）

前年度一斉メール配信ソフトの予算を確保したものの、仕様内容がまとまり切らず、作成に至らなかった。もう一度仕切り直し、調査・確認・検討し、学区に必要な仕組みを構築します。

- ・現在学校から、学区、町内から発信している情報を確認調査します。
- ・現在ある電子ツール（小学校一斉メール、電子町内会、一般的なSNSなど）で、できることできないことの検証を行います
- ・今行っている伝達方法（回覧板、掲示板等）などをもとに、どんな機能が必要か検討していきます。

事業実施者としての評価・感想など

今年度は本事業を始めた年であり、計画はしたもののどのように進めていけばいいか不安と、焦りの1年でした。

今年は身近で協力していただける町内と、団体数グループの活動に絞り検証、実践を行いました。

高屋町内のパークフェスティバルでは、全体の企画運営も関わらせていただき、町内会の若手（体協中心）に一任頂き「準備を軽減しても、参加者数は落とさない」で準備期間を1/5に、イベント期間を2日から1日にしましたが、1日の参加者数は昨年より1.2倍にできました。参加してくれる世代に対し、求めている内容をしっかりと打合せなりができた結果だと考えます。また、新たに行った、高屋クエストでは福寿会とキッズパークの方の協力も得、3世代交流のイベントとしてすごく盛り上がりました。

発達障害の子を持つ保護者の会や、子育て広場など、若い女性が活発的に活動しておりますが、意外と地域とのかかわりが薄く、参加する方も関わっている方ばかりでしたが、今夏は、学区のイベントとして連合町内会、民生委員会、小学校管理職など、多くの方にかかわっていただきました。「地域がすべての子どもたちを育てる」と心温まるご意見を多数いただきました。次年度も、メンバーを増やすことも重要ですがそれ以上に多くの方にかかわっていただき、将来を担う子供たちを育てる環境づくりを推進していきたいと考えております。

事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
高屋町内会	高屋パークフェスティバル
ウィズはあと	そうめん流し、講演会及び映画上映会(12月、2月)、東公民館フェスタ
おひさま会	そうめん流し、講演会及び映画上映会(12月、2月)、東公民館フェスタ
幡多学区子育て広場	そうめん流し、講演会及び映画上映会(12月、2月)、東公民館フェスタ
幡多小学校 PTA	幡多学区イメージキャラクター募集

収支決算書

◆収入

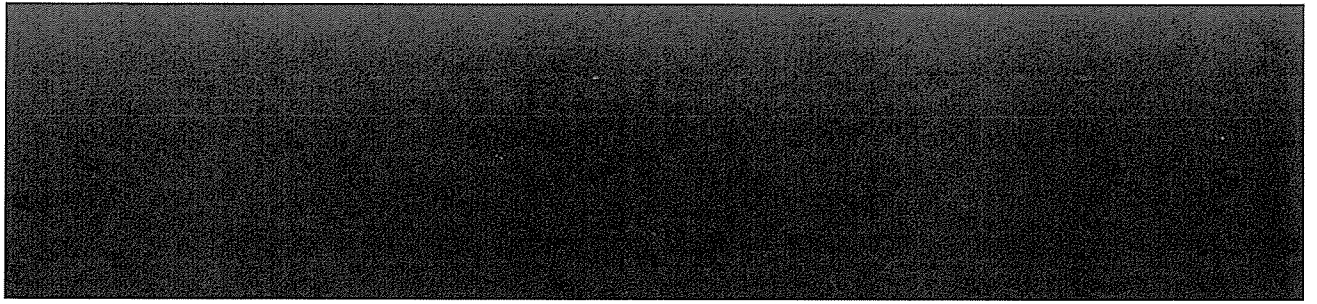
単位:円

項目	予算額	決算額	備考
岡山市補助金	608,000	97,300	
負担金	122,000	24,437	
参加費	30,000	0	
計	760,000	121,737	

◆支出

単位:円

項目	予算額	決算額	内容 (必ず記載してください)
会場費	0	0	
消耗品費	20,000	48,307	流しそうめん、高屋クエスト ームホルダー等、12月講演チ ラシィンク、用紙東公民館フェ スタ遊具、ボードゲーム等
報償費	150,000	25,000	講師謝礼
食糧費	0	2,910	会議時飲物、講師お茶
雑費	40,000	0	食糧費消費費に転嫁
印刷製本費	70,000	12,960	ボランティア証、チラシ
通信費	10,000	0	
借り上げ料	110,000	0	使用料に転嫁
使用料	0	20,736	テント、机、照明
原材料費	0	11,824	流しそうめん材料、高屋クエス トームホルダー等材料、菓子 投げ材料等、東公民館フェスタ 遊具、ゲーム等
開発委託料	200,000	0	メールー斉配信ソフト
赤田夏祭りイベント費	80,000	0	
高屋パークフェスティバルイベント費	80,000	0	消耗品費、原材料費に 転嫁
計	760,000	121,737	



事業実施経過

※時系列に沿ってご記入ください。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日などもご記入ください。補助事業実施決定前の準備活動についてもございましたらご記入ください。

月	活動内容
4月	15日 スタッフ会議実施(主要メンバーで方向性の確認と事業計画確認) 20日 一斉メール、電子町内会について現状把握(連合町内会担当者、小学校中島副校長先生と)
5月	10日 連合町内会の総会にて区づくり推進事業取り組み報告 13日 ウィズはあとスタッフ会議 17日 電子安全マップの検討(小学校PTAと)
6月	4日 赤田町内会夏祭り実行委員会参加
7月	16日 赤田町内会夏祭り実行委員会参加 24日 ウィズはあと、おひさま会、子育て広場と共催で流しそうめん会の開催 26日 高屋パークフェスティバル実行委員会
8月	11日 赤田町内会夏祭り実行委員会参加 15日 高屋パークフェスティバル実行委員会 27日 ウィズはあと京都研修会参加
9月	17日 高屋パークフェスティバル参加(高屋クエスト、菓子投げ運営、発達障害の子どもたちブース出展)
10月	14日 12月の発達障害を理解しよう講演会に向けたスタッフ打合せ 27日 スタッフ会議(中間報告反省会)
11月	9日 12月の発達障害を理解しよう講演会に向けたスタッフ打合せ及び講師との打ち合わせ 11日 発達障害について考える会特別講座 27日 東公民館主催フェスタに子育て広場、ウィズはあと合同出展
12月	3日 発達障害を理解しよう講演会開催 5日 小学校管理職、小学校PTA会長、OBの学区活性化に向けた打ち合わせ会開催 9日 2月開催の上映会および講演会に向けた準備会

1月	<p>13日 2月開催の上映会および講演会に向けた準備会</p> <p>20日 スタッフ会議（次年度の取り組み検討会議実施）</p> <p>31日 幡多学区のイメージキャラクター一次募集締め切り（学校・PTAに依頼し小学生の自由課題として募集）32件</p>
2月	<p>11日 「みんなの学校」上映会および木村泰子先生の講演会開催</p> <p>28日 幡多学区のイメージキャラクター二次募集締め切り（学校・PTAに依頼し小学生の自由課題として募集）63件 計95件</p>
3月	<p>12日 全体の反省、報告書作成</p> <p>28日 スタッフ会議（全体の反省、次年度の取り組み検討）（校長先生、PTA会長参加）</p>